

建築用金属内外装材の「フロント」

建築物や外構など用途も広がる
「建築物や外構など用途も味する英語『RUSTY』（同の形容詞社）。

建築用金属内外装材の製作・工事業、フロント（本社・東京都新宿区、社長・松川博行氏）は、工場から出荷前に

鋆（さび）を熟成させる耐候性鋼の仕上げ技術「RUSTY R.」を確立した。初期に流出する鋆の発生期間を大幅に短縮する鋆の発生時間を大幅に短縮。施工後に周囲を汚す初期鋆の課題を解消するとともに、鋆本来の美しさを生か

して、建築物や外構向けなど耐候性鋼の用途拡大につなげる。

「RUSTY R.」

では、工場で耐候性鋼のミルスケール（黒皮）

を除去し、同社が開発

した特殊な鋆出し剤で瞬間に鋆させる。

現。一連の工程を経て、初期に流出する鋆を極めて2カ月以上の熟成期間を設け、屋外で天日と風雨にさらしながら鋆を育てるこ

と、「生」これまで使用箇所が

を差す「RAW」の頭文字を組み「R.」は、建築物の合わせて名付けた。時間の長さに応じて色に滲さや深みが増す鋆ならではの美しさを指向するデザインを実現。一連の工程を経て、が増す鋆ならではの美しさを指向するデザインが増える中、鋆び

力最小化した状態の耐候性鋼を施工現場に搬入する。「生きた鋆をまとい、天日と風雨にさらしながら鋆を育てるこ



は、鋆を意「何んまいの経年変化を愉しんでもらう」（同社）。
と、「生」これまで使用箇所が限定的だった耐候性鋼に対し、「RUSTY AW」の頭文字を組み「R.」は、建築物の構成部材や、パネルやサッシ、フェンスといった外構分野など幅広く利用できる。住宅や教育施設などで採用実績があり、同社では「生きた鋆をまとい、天日と風雨にさらしながら鋆を育てるこ

ンスが不要な耐候性鋼の特性を生かしながら提案していく。